

2016年度活動報告

1. 活動の概要

2015年9月、韓国済州島で「徐福文化研究協議会」が開催され、中日韓の共同遺産である徐福文化の研究を強化し、さらにはその研究成果を世界遺産に登録しようということが話し合われ、同10月に徐福の故郷である中国江蘇省連雲港市贛榆区で開催された国際シンポジウムの中で、「徐福文化国際研究協議会」を設立することが満場一致で可決されました。

日本国内には、各地に徐福研究団体、個人の研究者が多数存在します。世界遺産登録のために、日本の組織が必要となるため、佐賀県徐福会、八女徐福会、神奈川徐福研究会が発起人をなり、全国組織を設立することを各地に提案しました。その結果、各地の徐福研究団体、個人の研究者の賛同を得られ、設立総会を2016年3月19日に佐賀市内で開催し、4月1日に「日本徐福協会」を発足させることが決まりました。

世界遺産の登録を進めるため、2016年5月20日、佐賀市において、「第3回中韓日徐福文化国際研究協議会」が開催され、世界遺産登録に向けての協議が行われました。しかし、研究方法を廻って、韓国出席者提案の徐福が持ってきた五穀の種、鉄器文化と徐福一行との関係など歴史学的なアプローチを主とする提案に対して、日本側の徐福伝承の調査、徐福を廻る文学、徐福伝説研究を主体とするとの提案は全く方向が異なり、議論の進展はありませんでした。

中国からは、有形世界遺産の登録は困難であり、先ず徐福伝説をユネスコの無形文化遺産登録を目指す、との提案がありました。

三カ国協議では、具体的な進め方について議論の進展がなかったため、その後の日本徐福協会でも、世界遺産に向けての具体的な取り組みは進みませんでした。

しかし、日本徐福協会は、会員相互の連絡網の整備、ホームページの立ち上げ等、徐福伝説情報の共有化のための基盤整備を行い、事務所の確保手続きを行いました。

2. 会員数と構成

団体会員	12団体
個人会員	8名
計	20

2017年度活動方針（案）

1. 世界遺産登録に向けて

2016年5月20日、佐賀市で開催された、「第3回中韓日徐福文化国際研究協議会」においては、三カ国の協議が進展しませんでした。日本徐福協会としても、有形文化遺産として登録することが困難であることを認識し、中国からの提案である「徐福伝説を無形文化遺産としての登録を目指す」、この方針に基本的に賛同して活動を進めます。

日本徐福協会は、具体的な研究分野を、「徐福伝承」と「徐福の時代の考古学」を提案しましたが、無形文化遺産登録を目的とするため、「徐福の時代の考古学」を削除し、「徐福伝承の研究」のみとし、具体的には次の研究を推進します。

- ①中韓日における伝承資料の記録（伝承資料及び文献資料）
- ②徐福をめぐる文学
- ③徐福伝説の現在

2. 各情報の整理、活用、発信

各地の徐福に関する情報、各種の徐福研究に関する情報を整理し、ホームページ等の活用により、情報の共有化と発信を進めます。